平成 30 年度第 1 回福岡市保健福祉審議会総会　議事録

日時

平成 30 年４月５日（木）　16 時 00 分～17 時 00 分

場所

天神スカイホール　メインホールＡ

出席者

別紙の通り

会議次第

Ⅰ　開会

Ⅱ　議事

（１）委員長，副委員長の互選

（２）委員長による各専門分科会委員の指名

Ⅲ　報告事項

（１）任期中の主な調査審議事項（予定）について

（２）平成 30 年度 保健福祉局における主な事業概要について

Ⅳ　閉会

議事録

Ⅰ　開会

【事務局】

福岡市保健福祉審議会総会の開催に当たり，本審議会委員 35 名のうち，開会時点において，25 名が出席し過半数に達しているため，福岡市保健福祉審議会条例第 6 条第 3 項の規定により，本日の会議は成立することを報告。また，福岡市情報公開条例に基づき，本審議会は原則公開となっている旨を報告。

Ⅱ　議事

（１）委員長，副委員長の互選

【事務局】

「委員長，副委員長の互選」について，本審議会の委員長と副委員長の選出は，福岡市保健福祉審議会条例第５条第１項の規定により「委員の互選」によって定めることとなっている。

なお，これまで，委員長・副委員長各１名を選任していたが，当審議会では，健康・医療，地域，高齢，障がいなど幅広く審議を行う必要があるため，今期より副委員長を２名選任いた

だきたいと考えているが，了解いただけるか。

（異議なし）

それでは，委員長１名・副委員長２名を選出させていただく。推薦等あればお願いしたい。

（事務局一任）

それでは，事務局より提案させていただく。
事務局案としては，委員長は石田委員に，副委員長は岩城委員並びに髙田委員にお願いしたい。

（異議なし）

石田委員，岩城委員，髙田委員，引き受けていただけるか。

（了承した）

　それでは，石田委員に委員長を，岩城委員・髙田委員に副委員長をお願いする。石田委員長，岩城副委員長，髙田副委員長は，席の移動をお願いしたい。

（委員長・副委員長席へ移動）

【事務局】
　では，これより先の会議の進行については，石田委員長にお願いしたい。

（２）委員長による各専門分科会委員の指名
【委員長】
　議事（２）の「委員長による各専門分科会委員の指名について」について，福岡市保健福祉審議会条例第７条第３項により，委員長が指名することとなっている。指名案については，事務局から説明をお願いしたい。

（指名案の配布，事務局から説明）

【委員長】
　事務局からの説明について，意見・質問等はあるか。

（意見・質問なし）

　それでは，指名案の通り，各専門分科会の委員を指名する。各専門分科会において，よろしくお願いしたい。

Ⅲ　報告事項
（１）任期中の主な調査審議事項（予定）について

（事務局より説明）

【委員長】
事務局からの説明について，意見・質問等はあるか。

（意見・質問なし）

説明内容に基づいて各専門分科会において追々審議を進めていくこととなるので，よろしくお願いしたい。

続いて，報告事項（２）「平成 30 年度 保健福祉局における主な事業概要」について，事務局から簡潔に説明をお願いしたい。

（２）平成 30 年度保健福祉局における主な事業概要について

（事務局から説明）

【委員長】
説明の通り，内容が各分野多岐に渡っている。まずは，医療分野について，意見・質問はないか。

【委員】
ピロリ菌検査，胃がんリスクの軽減について，ピロリ菌・ペプシノゲンを測定し，胃の萎縮を見ることで，35 歳，40 歳の若くて胃の萎縮が進んだ人は胃カメラを実施することにより，早期に胃がんを発見できるものであり，他の行政でも，また，検診でもよく実施しているので，ぜひこれは進めていただきたい。

【委員長】
多様な主体による生活支援，人生 100 年時代の持続可能な社会づくりについて，何か，意見・質問はないか。

【委員】
今，指摘のあった項目以外のところでもよいか。
ベンチプロジェクトについて，ベンチは景観に大事な要素であり，例えば，他都市を訪問した際に，ベンチのデザインが美しいと非常に心地よさ，楽しさを感じる。市民にとって安心して外出できる，という要素だけではなく，デザイン性も考慮いただきたい。また，ユニバーサルデザインの観点から，阪神淡路大震災の後，通常はベンチだが，災害時には，ベンチを外すとマンホールがあって，トイレの機能を果たす，といった機能を持つベンチも開発されている。災害時を考慮した，ベンチの設置も検討してはどうか。

【委員長】
アクティブエイジング関係で，意見はないか。

【委員】
福岡市は超高齢社会に向けた取組みをかなり進めている，と評価されてきているが，その全体像が，本当に市民に届いているのか，気になるところである。今後，市民が考え方を改めなければ，これまでの継続的な考え方のままで将来を見ていくとミスマッチを起こしてフラストレーションがたまっていくのではないかと思う。そのような意味で，保健福祉分野での住民への分かりやすい情報提供が必要ではないか。例として，ハワイでは，アクティブエイジングの重要性を市民に周知するため，このような場合には，このような団体に相談したらいいですよ，といった内容と団体名・連絡先を記載した冊子を作成し，市民に配付している。このように，もう一段市民のマインドセット，啓発に力を入れることが，今後の保健福祉において重要ではないか。

【委員長】
ただ今の意見は，非常に重要である。保健福祉の分野は，非常に幅広く，内容が多岐にわたる。市民が，関心のある内容は知っているが，関心のない内容については，知らないことも多いということからも，広報・啓発活動は必要である。
先程のベンチ及び広報・啓発活動について，事務局から何かあれば，コメントをお願いしたい。

【事務局】
ベンチについては，合成木材でささくれなどしない安全性の高いものや，高齢者が座るため手すり付きのもの，背もたれのあるもの，といった観点でベンチを設置しているが，デザインの面についても配慮しながら進めていきたいと考えている。また，災害時に対応したベンチについては，意見を参考とさせていただき，今後の検討とさせていただきたい。
広報・啓発活動については，現在，取組みを進めている福岡 100 プロジェクトで，市民一人一人の健康寿命延伸に向けた行動変容が起こるよう，市全体として取組みを進めていきたいと考えている。また，保健福祉局全体で連携が必要な部分があるため，昨年設置した政策推進部で全体を見渡した広報ができるように取り組んでいきたい。

【委員長】
ただ今のコメントの内容も含め，今後いろいろと充実させていただきたい。
高齢障がい者の介護保険サービス，精神障がい者の問題等について，何か意見はないか。

【委員】
高齢社会の進展により，高齢障がいが増加してくるものと思われる。その中で，サービスの問題が大きくクローズアップされるが，施策は進んでいるものの知られていない，というケースが非常に多い。例えば，２年前に差別解消法が制定されたものの，昨年の内閣府のアンケートでは，国民の 20％程度しか知らない，内容もあまり知られていない，ということで，啓発が非常に重要だと考えている。施策の実施が先行しているが，市民にどれだけ浸透しているか，という点において，大きな課題だと思っており，今後実施していか

なければならないだろうと思う。
　また，先程のベンチについては，私もさまざまな委員会で 20 年近く，その必要性を説いてきたが，場所がない，費用がない等のできない理由が先行してなかなか進まなかった。ベンチはただ単に疲れたから休むためのものということに限らず，ベンチがあるから人がまちの中に出ていく，特に高齢者が外出の意欲がわいてくるというのが健康にもつながるわけであり，また，景観もよくなる。景観にあったベンチ設置という観点から，同じ材質のものを同じよう置いていくのではなく，その景観に合ったデザインのものを検討されるといいのではないか，と以前から思っているところである。そうすることでまちの景観もよくなるし，みなさんの気持ちも豊かになると思っているところである。

【委員長】
　精神障がいや発達障がい児について，何か意見はないか。

【委員】
　精神障がい者については，医療と同時並行で行うので，医療が非常に重要である。精神衛生法時代は入院をメインとした医療が中心だったが，平成の時代に入って，精神保健法に改正され，精神保健福祉士，ソーシャルワーカーの国家資格化など，国から地域へという計画に基づき，医療関係者も十分でなかったとは思うが，努力により地域移行を進めてきた次第である。病院機関だけ，個々の福祉機関との連携だけではなかなか問題の解決がうまくいかなかったケースも多かった。この状況に限界を感じてきたこともあり，今回，行政を中心として強力に支援いただくことになり，また，市から精神障がい者地域移行支援部会会議を積極的に実施していきたいとのことで，協会にも参画の依頼があったので，担当者の選任等を準備しているところである。今後，ぜひとも市と協力して，ともに地域移行を推し進めていきたいと考えている。

【委員長】
　ただ今の内容に関連して，その他，意見はあるか。

【委員】
　精神障がい者の地域生活への移行については，これまでも社会的入院についてずっと言われており，なかなか進んでいないということで，やはりこの点をどう解決していくか，前に進めていくか，ということもあり，ぜひ強力に推し進めていただきたい，と考えている。また，昨年度より，障がい者の基幹相談支援センターが市内 14 か所に設置されて活動を始めたが，このような地域生活移行に関するネットワーク等にもセンターが関わってくる，という点では，センターの業務が非常に多忙になっていると感じており，全体を見た視点でも考慮いただきたい。

【委員長】
　ただ今の内容に関連して，広報・啓発の観点から，何か意見はあるか。

【委員】
精神障がい者については，地域社会の中の差別感がなかなか拭い難いというところで，ど

うやって乗り越えていくかと考えたときに，教育の中で早い時期から精神障がい，身体障がい含めて，障がいに対する認識を育んでいくことが最も重要ではないか，と考えている。また，障がい者を分けるのではなく，教育の中で一緒に学ぶような機会を増やしていくことも長い目で見ると問題の解決につながるのではないか，と思う。

【委員長】
精神障がい等については，家族，地域，周囲の理解が非常に大切だと思うので，このような観点からいろいろと進めていただきたい。
他に何か意見はないか。

【委員】
人材養成の問題について，現場では非常に課題になっているが主要事業にあがっていない。各分野において，単に介護施設のみならず，さまざまな場面において人材養成をどうすべきか，制度は整備されてきているが，その制度を担って活躍する人材が不足している。特に保健福祉の分野は，人材養成が世界的にも大きな課題になっており，市としての取組みをどうするか，について，大きな宿題になっていると思う。現場の声に対し，市がどのように対策を講じるのか，気になるところであり，意見をいただきたい。

【事務局】
ただ今の意見について，例えば，高齢者施設に関連して言えば，高齢化の進展に伴い，介護人材不足が顕著になる中で，介護人材の確保は喫緊の課題であると考えている。従来は，介護職員の資質，マネジメントの向上を目的とした研修を実施してきたが，27 年度以降は介護人材確保事業として，合同就職面談会，定着支援研修に力を入れ始めている。介護職員の処遇については，介護報酬に関して，この数年で処遇改善の加算について国の動きがあり，月額１万３千円程度上昇したという内容が報道されている。一定の成果が見込まれることもあり，今後とも直接的な処遇改善は，継続的に市として国等に要望していきたい，と考えている。一方で，施設と人材のマッチングや，定着支援，外国人介護人材等は，市としてもう少し努力の余地がある，と考えている。このため，30 年度は，機構整備により，人材確保のための主査を配置するとともに，取組みの強化に向けて保健福祉局としてもプロジェクトチームを設置し，まずは実態調査の実施・分析により，どういった施策が打てるのか，各方面に相談させていただきながら検討していきたい，と考えている。

【委員長】
人材育成は継続的にきちんとやっていかないとなかなか難しいと思う。ただ今の説明にあった取組みについて，今後とも継続していただきたい。

先程申し上げた通り，さまざまな検討課題について，今後それぞれの分科会，総会において，議論を深めていただきたい。

Ⅳ　閉会

（別紙）　出席者一覧

(1) 福岡市保健福祉審議会委員（五十音順）

氏　　名	役職・専門分野等
阿　部　正　剛	福岡市議会第２委員会委員
池　田　良　子	福岡市議会第２委員会委員
石　田　重　森	福岡大学名誉学長(保険論，年金論，社会保障論)
伊　藤　　豪	福岡大学商学部准教授（保険論，社会保障論）
岩　城　和　代	弁護士
岩　田　直　仁	西日本新聞社論説委員会委員
岡　田　光　生	公益社団法人福岡市老人クラブ連合会会長
岡　田　　靖	独立行政法人国立病院機構九州医療センター副院長
小　川　全　夫	九州大学名誉教授／特定非営利活動法人アジアン・エイジング・ビジネスセンター理事長
鬼　塚　　恒	弁護士
鬼　﨑　信　好	久留米大学文学部社会福祉学科教授（社会福祉学）（社会福祉士，精神保健福祉士）
楠　　正　信	福岡市議会第２委員会委員
倉　光　律　子	福岡市七区男女共同参画協議会代表
倉　元　達　朗	福岡市議会第２委員会委員
古　賀　康　彦	福岡市介護保険事業者協議会会長
髙　田　　仁	九州大学大学院経済学研究院産業マネジメント専攻教授
樗　木　晶　子	九州大学大学院医学研究院保健学部門教授（循環器内科学，生理学，臨床看護学）
中　原　義　隆	社会福祉法人福岡市身体障害者福祉協会会長
長谷川　　浩二	一般社団法人福岡県精神科病院協会副会長
鳩　野　洋　子	九州大学大学院医学研究院保健学部門教授（公衆衛生看護学）
花　田　敏　秀	社会福祉法人福岡市手をつなぐ育成会理事長
浜　崎　太　郎	福岡市議会第２委員会委員
濵　﨑　裕　子	久留米大学人間健康学部教授（コミュニティ福祉論，発達環境論）
平　井　　彰	一般社団法人九州経済連合会常務理事 事務局長
平　田　泰　彦	福岡市医師会副会長
宮　本　政　智	福岡市精神保健福祉協議会副会長
森　住　勝　子	福岡市民生委員児童委員協議会会長
安　元　佐　和	福岡大学医学部医学教育推進講座主任教授(小児科(小児神経学)，医学教育，障がい者医療，特別支援教育，こども虐待)
山　口　繁　実	福岡市自治協議会等７区会長会代表
吉　村　展　子	社会福祉法人福岡市社会福祉協議会常務理事

(2) 福岡市職員（組織順）

氏　　名	役職
荒　瀬　泰　子	福岡市副市長
永　渕　英　洋	福岡市保健福祉局長
舟　越　伸　一	福岡市保健福祉局理事
小　川　明　子	福岡市保健福祉局総務部長
中　村　　裕	福岡市保健福祉局総務部総務課長
下　川　泰　功	福岡市保健福祉局総務部保護課長
後　藤　ゆかり	福岡市保健福祉局総務部生活自立支援課長
島　崎　直　彦	福岡市保健福祉局総務部国民健康保険課長
結　城　康　之	福岡市保健福祉局総務部医療年金課長
中　村　卓　也	福岡市保健福祉局政策推進部長
竹　森　活　郎	福岡市保健福祉局政策推進部政策推進課長
木　本　昌　宏	福岡市保健福祉局課長（健康先進都市推進担当）
大　島　晶　子	福岡市保健福祉局健康医療部長
佐　伯　俊　資	福岡市保健福祉局健康医療部地域医療課長
山　本　信太郎	福岡市保健福祉局健康医療部保健予防課長
入　澤　由三子	福岡市保健福祉局健康医療部健康増進課長
山　口　正　裕	福岡市保健福祉局健康医療部医療事業課長
髙　木　三　郎	福岡市保健福祉局高齢社会部長
田久保　義　隆	福岡市保健福祉局高齢社会部高齢社会政策課長
中　薗　泰　浩	福岡市保健福祉局高齢社会部地域包括ケア推進課長
石　橋　進　次	福岡市保健福祉局高齢社会部介護保険課長
林　　紀　子	福岡市保健福祉局高齢社会部高齢福祉課長
笠　井　浩　一	福岡市保健福祉局高齢社会部認知症支援課長
平　田　成　人	福岡市保健福祉局障がい者部長
吉　田　　命	福岡市保健福祉局障がい者部障がい者在宅支援課長
水　町　卓　典	福岡市保健福祉局障がい者部障がい者施設支援課長
木　内　佳　伸	福岡市保健福祉局生活衛生部長
小　野　英　樹	福岡市保健福祉局生活衛生部生活衛生課長
宮　尾　義　浩	福岡市保健福祉局生活衛生部食品安全推進課長